

第30回八代地域審議会発言要旨

委 員	事 務 局
市の歌について	
<p>「わたしのまちは」は愛唱歌とのだが、旧八代市には「市民の歌」というものもあった。愛唱歌と市民の歌の位置づけについて、どう理解すればいいか。</p>	<p>旧八代市においては、「陽は昇る」という歌が市民の歌としてあり、「市歌」でもあった。これは条例でも明確に市の歌と謳っていた。愛唱歌は、市民が広く歌い、親しんでいくものという位置づけで、条例ではあえて謳っていないという違いがある。</p>
<p>「陽は昇る」は何もなくても歌えるが、市の歌として条例に書いてあるからこそ、市民に周知徹底ができたのではないかと思う。愛唱歌である「わたしのまちは」は、聞いたことはあるという程度で、円広志氏が作曲をしたということも、資料を見て初めて知った。歌詞についても、最後に「やつしろ」という言葉だけ出てくるものの、地域らしさがあまり感じられない歌という印象を受けた。言い方を変えれば、どこの地域でも通用する歌で、市の歌としては当たり障りがないように感じた。</p>	<p>他地域の審議会でも同じような意見が出ている。例えば、川はどこにでも流れているし、個性がないという意見もあった。一方で、ある人によっては球磨川を思い浮かべ、ある人によっては大鞘川というように、様々な川として捉えることができるから、歌詞はいいというような意見もあった。今回は、自由にご意見を伺いたいと考えているので、一つのご意見として参考にしたい。</p>
<p>市歌には、やはり八代の特性がないといけないと思う。そうすると、歌詞の中に、自然、産業、歴史といったものがある程度入らないといけないと思う。何を優先するかについては、市として、全国に何をアピールするかを考えていけば、案外うまくいくのではないか。それが難しいというのであれば、新たに、新市の歌を制定するのが一番いいのではないか。</p>	
<p>愛唱歌である「わたしのまちは」を市のイベントで優先的に活用とあるが、今後、市歌を制定して、どのようなときに使っていこうと考えているのか。</p>	<p>市主催の祭り、式典での使用を考えている。場合によっては電話の待ちうけ音、朝8時と夕方18時に庁舎から流れる音楽などで流すことも可能と考えている。</p>

委 員	事 務 局
<p>「わたしのまちは」を使用するにあたっての、著作権の関係についてはどうか。</p>	<p>著作権については、当時経費を出して作成しており、八代市の方にある。</p>
<p>「わたしのまちは」は、色々なイベントのときにバックで流れているが、「市の歌」というよりは、イベントの際に流され、最初にみんなで歌うというように使われる愛唱歌としては非常にいい。</p>	
<p>会に先立って開かれた地域審議会正副会長会議では、旧市町村から伝承された愛唱歌の中から、「わたしのまちは」を格上げして、市の歌にしてもいいのではないかという意見もあったが、そういうお尋ねという認識でいいのか。</p>	<p>今回意見をいただく点をもう一度整理すると、1点目は、7曲の愛唱歌が横並びになっている状況であるが、その中で、「わたしのまちは」を市のイベント等で優先的に流して良いかの意見を伺うもの。2点目は、「わたしのまちは」とは別に、新たに市の花や市の鳥といったものと同様に、「新市の歌」を正式に制定した方がいいのかということをお願いしたい。</p>
<p>広域合併したことによる総合的な歌、市の歌として「わたしのまちは」を取り上げていいのではないかと思う。これをメインで使用する一方で、旧市町村から伝承された市歌や音頭については、各地域のイベント等をする際に使用して盛り上げていくという二本立てが理想的ではないか考える。</p>	<p>愛唱歌の一つを市の歌に格上げするという考えも1つの選択肢ではある。そうではなく、愛唱歌は愛唱歌なので、新市になったのだから新市の歌を正式につくるべきという市民の声が大きければ、その方法も考えなければいけないと考えている。</p>
<p>各地域の特性や地名を載せたいという考えもあると思うが、相当な数があり、載せられないと思う。「わたしのまちは」の歌詞くらいの表現がいいのではないか。メロディーも穏やかで、住民にも歌いやすい。曲としても非常にいいものだと考える。</p>	
<p>市の歌と別に、「市の心」というものも作ってもらいたい。例えば、熊本の心「助けあい、励ましあい、志高く」というものがある。八代市民として、誇れる言葉を検討してほしい。</p>	

委員	事務局
<p>市の歌を新しく作る場合、市民に浸透するまでにまた時間がかかるのではないか。ある程度浸透されている「わたしのまち」をベースにしてもいいと考える。</p>	
<p>JA女性部にも歌があり、色々な会議やイベントがあったときは必ず流して、みんなで歌うようにしている。そういった象徴としての曲が市にもあった方がいい。「わたしのまち」をイベント等で優先的に流すのはいいのではないかと思う。</p>	
<p>住民自治によるまちづくり行動計画（後期）について</p>	
<p>資料の8ページに「地域支援職員」とあるが、これは1校区に1人、常勤になるのか。それとも2校区に1人というように掛け持ちになるか。</p>	<p>常勤になる。</p>
<p>新しいことをしようとするときは、不安が先に立つ。「安心は人を愚かにし、不安は人を賢くする」という言葉がある。不安だからこそ、次から次へと問題点が思い浮かぶ。住民が安心し、楽しく過ごせるまちをつくりたいと思えば思うほど不安が募る。</p>	<p>地域リーダー養成研修会というものを開催しており、今年度は年5回開催した。そのうち2回が自主財源の確保についての講座であった。県職員から、夢チャレンジ応援事業というコミュニティ関係の制度の活用についての説明、また、他の地域の夢チャレンジ応援事業を活用した事例の発表などがあり、ノウハウを勉強する機会を設けた。国・県の補助事業の申請の仕方、書類の書き方などは、行政が得意とするところなので、市職員も一緒になって作成していくのも必要ではないかと考える。</p>
<p>自主財源の確保とあるが、国や県の補助事業の活用というのは、非常に大変だと思う。補助事業に関する指導などは、行政側からしていくのか。</p>	<p>地域の行事に率先して参加している職員もいると思うが、色々な都合等で、参加したくても参加できないということもあると思う。行政としても、職員に対して情報を流しながら、職員の参加も必要だという啓発をこれから図っていきたい。</p>
<p>補助事業を活用するためのノウハウなども、地域アドバイザーに教えてもらいながら、一緒になって企画していければいい。計画は毎年</p>	

委 員	事 務 局
見直しをしていくということなので、一歩踏み出していくのもいいのではないか。	
何事もフィードバックしていくことが大切。	
土砂災害危険区域の指定について	
坂本、東陽、泉地域からは何か意見は出たのか。	市が受け取った情報を、できるだけ早く地元へ情報提供してほしいとの依頼があった。また、県からも十分な説明をしてほしいとの意見もあった。
災害時によくインタビューなどで聞くのが、「数十年ここに住んでいて、初めて災害が起こった」というような言葉。そういった安心感、心理的な偏りが、被害が拡大の原因にもなることもある。まずは、予防的な避難をすることが大事。できるだけ県からの情報を地元へ下ろして、地元の意見を県に伝えるということなので、その姿勢には安心している。	
八代市組織再編について	
資料の組織機構図の中で、直線と点線の部分があるが、それぞれ何を示しているのか。	直線部分は、実際課の中に配置してある係を示している。一方点線は、職場が各支所や出張所にある出先機関を示している。
市長局の経済文化交流部文化振興課の中に「文化財係」とある。文化関係は大きく分けると文化振興と文化財関係になるが、その中の文化振興の方は市長局で、文化財の方は教育委員会が所管している。組織図を見ると、教育委員会の生涯学習課のところに、文化財に関する記載がない。この部分は、教育委員会の組織の中に明確に位置づける必要があるのではないか。	文化振興については、人の賑わい・創出と言う意味で、観光と結びつけ、市長局の文化振興課が所管となっている。文化財の所管としては、名称は組織名の中に出てはいないが、取扱い事務としては教育委員会の生涯学習課の中にある。

委員	事務局
新市誕生 10 周年記念事業について	
<p>新市誕生 10 周年を記念するものとして、これまでの継続事業と冠をつけるだけのもの、新規で特別に実施するものということで分けてあるが、特別事業に位置づけているものの中に、山頭火フォーラムのように今までも行われてきたものがある。また、「市民活動特別支援事業」というものがあるが、今まで市民活動支援課で「がまだしもん応援事業」という補助金事業を行っていた。「特別に実施する事業」に位置づけられる意味について尋ねる。</p>	<p>山頭火フォーラムについては、今回は 10 周年を記念して、「全国フォーラム」を開催するというので、規模を拡大して実施することから、特別に実施するものとして位置づけている。</p> <p>市民活動特別支援事業については、がまだしもん応援事業とは別に実施する新しい補助事業で、未来に向けて新たな出発となるような市民活動を市が支援するもので、採択された事業については、1 団体あたり 20 万円を上限として補助金が交付される。募集時期については、がまだしもん応援事業と同時期に行いたいと考えている。なお、継続事業も対象としているが、その場合は 10 周年を記念して拡充した部分を対象にしている。</p>
10 周年事業の総予算はいくらになっているか。	約 9, 880 万円となっている。
八代市地域公共交通網形成計画について	
意見・質問等なし	
八代市総合計画における平成 27～29 年度実施計画について	
資料 31 ページの八代港クルーズ客船誘致事業に関連して、八代市では、どの程度免税対応の店があるのか。	一部のショッピングセンターが対応しているという程度しか承知していない。今後、そういった免税の対応を進めなければいけないということで、担当所管課が協議を進めているところ。
せっかく大型クルーズ船が来るのだから、八代市が潤うためにも、免税ショップの支援を市でも検討してほしい。	
大きな道ができたところには、目立つところには必ずパチンコ屋が建設されており、多すぎるように感じる。規制はできないのか。できるのであれば、子どもたちが安全に安心して遊べる場を作った方がいいように思う。	都市計画法上で用途地域という定めがある。その中の土地利用に基づいて、パチンコ屋を建てることができるかどうかを判断することとなる。個人資産の有効活用ということも一方であるので、あくまで都市計画法上の用途地域で対応していくしかない。

委員	事務局
<p>環境センターの建設について尋ねたい。龍峯校区に住んでいるが、龍峯のごみは八代市の清掃センターで処理されるのではなく、一部は九州産廃センターの方で処理をされているということであった。千丁、鏡、東陽、泉地域のごみは、氷川町の八代生活環境事務組合クリーンセンターで処理されている。龍峯校区は近くにクリーンセンターがあるのに、なぜ県北まで持っていかなければならないのか疑問に感じており、無駄が多いと思う。龍峯校区の廃棄物をクリーンセンターで処理できないのかと考えておりますが、議会で諮るなどして、検討してみてもどうか。</p>	<p>クリーンセンターの活用については、費用面等も検討した結果として今の状態になっているということでご理解いただきたい。もちろん税金を使って実施しているので、無駄を省いていく中で、可能な限り最善の方法で実施していると認識している。</p>
<p>今回の新環境センターの建設にあたり、これまでクリーンセンターで処理していた旧町村の廃棄物も、新しい清掃センターで処理するという話も聞くが、そのあたりの意見が噛み合っていないという噂も耳にする。住民として不安に感じている。住民が安心できるような環境センターづくりをしていただきたい。八代市と氷川町と相互にうまくやっていけるように、携わっている人の話し合いも必要ではないかと思っている。</p>	<p>環境センターについては、新しい八代市の廃棄物を適切に処理する施設というふうに認識している。ご意見があった旨は、担当所管課の方に伝える。</p>